

2024-2025

willdoor

一般社団法人ウィルドア 活動報告書

ANNUAL REPORT

一人ひとりが“自分”と“社会”と生きられる未来に向けて
一緒に歩んでくださるみなさまへ



『安心して、むき出しのわたしを委ねられる場所』

どれだけ未熟でも、素朴な疑問でも、真剣に自分に向き合ってもらえるのがウィルドアでした。一人ひとり「その人は本当はどうなのか」見て・感じて・受け止めてくれる場所でした。



1年生のときに初回のwilldoor Forumに参加し、学校内・外にある多様な学びの資源を使い、つくり「わたしからはじまる学び」を体現してきた きほちゃん

3年次には「憧れだった」と言ってくれたwilldoor Forumの登壇者に。

▶ 参加者インタビュー：広島県で通信制高校に通っていた きほちゃん さん

N高の新聞部やproject:ZENKAI、私の高校生活にはたくさんの機会やサポートしてくれる人たちがいました。けれど、その中でもウィルドアがつくる場が特に課外活動についてたくさん話し、自分の探究心をむき出しにすることを許してもらえた場所でした。

自分を深く見つめて、感じて、耳を澄ませていくことで、自分自身のことも信じられるようになっていく。外側から与えられるものだけで形作られる訳じゃない、自分にしか歩めない人生になっていく。そんな、自分を地盤に生きていくことができるようになった高校3年間でした。

1年生のときはじめて参加したwilldoor Forumの登壇者は「認められた人」感じつつも、手の届かない人じゃなくて「いつか、あんな風になりたいな」って感じられる存在だったんです。

3年生になって憧れだった場所に立たせてもらって、メッセージを伝える側になってみたら「もっと話聴きたいです」って言ってくれる人や、深い部分で共感してくれる人がいてくれて。仲間がどんどん広がってってくれるのが、とても嬉しいんです。



法人名： 一般社団法人ウィルドア
設立日： 2015年5月14日
共同代表理事： 竹田和広、武口翔吾
所在地： 神奈川県川崎市中原区新丸子東
静観ビル 301
お問い合わせ： info@willdoor.org

マンスリー
サポーター募集中

月 **1,000** 円からの
月額寄付でウィルドアの活動を応援できます



▶ きほちゃさんが高校時代を通して感じた変化

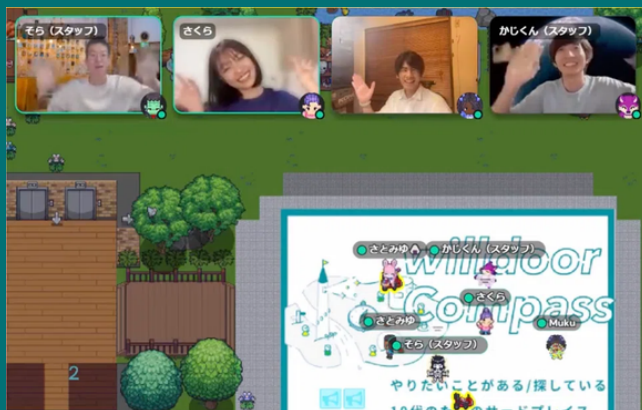
1. 実は「ひと」が大好きだった

人と話すなんて時間の無駄って思っていた。
小学校のとき、人間不信になってしまっていたから。
でもN高新聞部に入り、役割抜きに歓迎してもらえた
ことで「ここに居ていいんだ」と思えるように。



2. 正しさは絶対じゃなかった

project:ZENKAIを通して「親の言う通りに生きなくていいよ」と声をかけてくれる仲間がいた。
自分の正しさを信じるのは怖い。
でも内側の声を聴き、感じたことを純粋に声に出し、形にし続けたら、誰かから与えられる正しさ
じゃなくて「わたしが感じる“正しさ”」を大事にできるようになっていった。



いつでもアクセスできることを目指し、
メタバース空間（MetaLife）を活用した
イベント開催は、24年度は計91回に。



「私からはじまる学び」を体現した先輩が、
地域で・オンラインでまた後輩たちを導いて
いってくれる

▶ ナビゲート研究会を通して培った知見は、学校内外の 次世代の教育に関わる／関わりたい方の元へ確かに届きはじめている

生徒たちを導くことこそが役目、という思い込みがあったが、“黒子になる”意識を大切にすること
で、生徒が“自分でやった”という感触を持てるようになると学び、少し気が楽になった。

（学校教員）

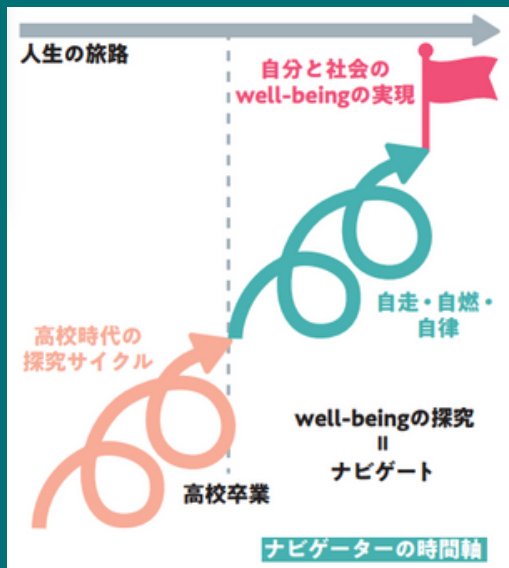
研修の中でインプットするだけでなく、こちらが考えをアウトプットし、意見交換できる場が多か
ったのがとても勉強になった。これを定期的の実施できれば、さらに探究文化が根付くと感じる。

（学校教員）

どうすれば「ナビゲート」やその前提となる関わりを広げていけるか、仕組みで出来ることはない
か、学校文化を変える上でできることはないか等を議論していきたい

（コーディネーター）

事業概要



単に探究やキャリア教育で成果を出すことなく個々人のキャリア発達に合わせて、学習者が**人生を通じて「自分と社会のwell-beingの実現」**に向けて、**自走・自燃・自律**できる状態になっていくこと目指し、事業運営を行っています。

【学校】で探究を体感してキッカケを渡し、それぞれの興味や関心・意欲に従って背中を押す。

【社会教育】の場合は、個々人の状態や関心に応じてさらに探究のサイクルが回り進んでいける。

そして双方の場が、より個人にとって良くつながっていくことを目指し、多面的に事業を展開しています。



学校教育を対象とした取り組み

- ワンダリングチャレンジ for School
- MAKERS 出張授業
- 都立 NPO×総合学科改連携事業

- ー プログラム提供学校総数： **31** 校
- ー プログラム提供生徒数： **4,273** 人
- ー 年間コーディネート校： 都立世田谷総合高等学校



中間領域（willdoor事業）

- Compass：総合型Onlineサードプレイス
- Forum：学びの資源 合同説明会
- AIコンパスさん：探究・課外活動支援ツール

- ー イベント開催回数： **84** 回
- ー 参加生徒数： **379** 名
- ー 連携団体数： **26** 団体



事業概要



学校教育

「わたしから始まる学び」
を体感し促進するキッカケ
の提供



中間領域

個々人の自分軸発見のサポ
ートと、次の一步となる学
びの機会や資源の推奨



社会教育

多団体との協働を前提に、
社会に不足する機会の拡充



教育関係者対象

次世代の教育にとって重要となる仕組みの検討、及び指導者・関係者にとって重要となるマインド・スキルセットの整理や発信・共有・支援



社会教育領域での取り組み

- マイプロジェクト長野県 事務局
- ワンダリングチャレンジ@地域
- MAKERS UNIVERSITY U18 事務局 他

- ー イベント実施総数： **80** 回
- ー プログラム提供生徒数： **1,764** 名
- ー 合宿プログラム： **3** 回（4泊6日）



教育関係者を対象とした取り組み

- 学びのナビゲーター研修
- 信州学び円卓会議 民間側事務局
- 長野マイプロ伴走者フォーラム

- ー ナビゲート研究会開催数： **7** 回
- ー ナビゲート研修参加者数： **588** 名（17回）
- ー 長野県民意見交換会参加者数： **186** 名
- ー 教員向け研修参加者総数： **68** 名（2回）



協力団体・協力者

willdoor Compass 連携団体一覧（順不同）

留学やプログラミング・起業・研究等、様々な機会を提供する団体と連携・協働させていただき、高校生の「次の一步」を応援する枠組みの構築を目指しています。



学びのナビゲート研究会 参加者のご所属

次世代の教育者にとって重要となる考え方や資質を「ナビゲート」と名付け、学校・行政・企業・NPO・現役高校生等、多様な立場の方と共に観点・技術を共有し、まとめてきました。

一般社団法人motibases

SOZOW株式会社

NPO法人しずおか共育ネット

ミテモ株式会社

群馬県立高崎高等学校

キュリー株式会社

一般社団法人HLAB

北陸大谷学園小松大谷高等学校

ENEOSリニューアブル・エネルギー株式会社

株式会社CURIO SCHOOL

NIIGATAマイプロジェクト☆LABO事務局

NPO法人IHRP

NPO法人こどもの未来をかんがえる会

西大和学園中学校・高等学校

プログラム協力者

高校生のファシリ/ナビゲーター等
として関わっていただいた方

のべ **775** 人～

講演者・プレゼンターとして
関わっていただいたアラムナイ

のべ **78** 人～



学校教育を対象とした取り組み

■ ワンダリングチャレンジ for School



ワンダリング チャレンジ

WANDERING CHALLENGE by City Wanderer

3人1組のチームを組み、ゲーム感覚で様々なミッションに挑戦することを通して、誰もが自分にとっての興味・関心や得意・不得意を発見する最初の一步を踏み出せる探究プログラム。

第12回経産省キャリア教育アワード優秀賞の受賞を背景に、24年度に続きプログラムコーディネーターの育成と展開に重点を置いて活動を行い、計6校にて実施を行いました。

〈助成〉一般財団法人三菱みらい育成財団



正解がないって、最初は不安だったけど、やっていくうちに“間違ってもいいんだ”と思えるようになった

■ MAKRES 出張授業



「まだない選択肢を自ら創る生き方」との出会いを届ける事業としてNPO法人ETIC.の運営するMAKERS UNIVERSITYの卒業生である若手起業家を派遣する出張授業型プログラム。寄付を複数人の起業家より頂き、年30校を上限として無償提供を行っています。

3年で延べ5000名以上の中高生に出会いを届けただけでなく、その場の紹介で他の企画に参加したり、起業家のもとでお手伝いをする人が現れるなどの事例も生まれています。〈共催〉NPO法人ETIC.



「“将来役に立つから”じゃなくて、“わがままでいよう”。自分がやりたいことをやるほうが、結局いちばん納得できると分かった。」

■ 都立 NPO×総合学科連携事業

東京都の総合学科高校改革施策の1つとして、学校にNPO職員が週2程度通い、生徒の自主的な選択を育む仕掛けを埋め込んでいく試行が23年度より始まり、事業の運営を担っています。

キャリア教育や課題研究等「自分で進める学び」の相談役として先生方・生徒のサポートをしています。また、放課後にイベントの開催や、生徒の相談対応ができる校内ユースセンターの運営を行っている他、地域連携の推進も行っています。24年度からは、選択授業「社会参画A」の運営を担い、多様な人材・社会教育資源と連携しながら、生徒の「自分で進める学び」の一層の推進を行っています。



「ウィルドアのみなさんがいなかったら誰にも悩みを相談できずに、もっと苦しい状況だったと思います。近くにいる信じられる大人でいてくださったから今も歩いていけると言っても過言ではないくらい大きな存在でした」



中間領域（willdoor事業）

メタバース空間を活用して、置かれた環境に左右されず学びの資源を“選択・活用する力”を育み、実行するための“機会とつながり”を届ける事業です 〈助成〉一般財団法人三菱みらい育成財団

willdoor Compass （高校生のための総合型オンラインサードプレイス）

「何かをやってみたいけれど何から始めれば良いかが分からない」若者が安心して最初の一步を踏み出すことができる場としてスタートしたサードプレイス、今年で3年目を迎えました。

本年度は84回を開催する定常型の場として運営し、参加者の平均満足度は10段階で9.24という結果となりました。

また、本年度は新たな試みとして初の対面でのCompassを実施。全国から高校生が集まり交流を深めました



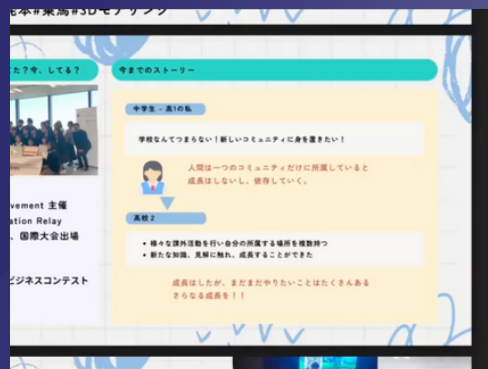
今まで自分の興味について誰かと話し合う機会がなかったので、今回初めて声に出して発信することができたし、他人と話すことで新しい視点が知ることができ、自分の視点もはっきりしました。

willdoor Forum （課外の学び合同説明会）

全国で課外の学びに向き合い楽しんできた先輩たちが、その想いや熱量を「これから探究をはじめたい」「何かに挑戦してみたい」後輩たちに繋いでいくイベントです。

24年度は大型・中型イベントを混ぜ込みながら計8回実施、延べ312名の高校生が参加するイベントとなりました。

登壇してくれた先輩もよち多様性が広がり、さまざまなニーズや新しい発見ができるイベントとなりました。



登壇者の人たちも同じ学生だからこそ悩みを相談しやすく、大人に話を聞くのとは違う楽しさがありました！お互い完璧じゃないからこそ話がしやすい。

AI Compassさん （AIを活用した探究・課外活動支援ツール）

ウィルドア初のAIを用いたサービスとして、「AIコンパスさん」をローンしました。探究や課外活動に取り組む中高生を対象とした生成AIで、生成AIです。生徒一人ひとりの興味関心に基づくテーマ設定や言語化、次の行動の提案を支援し、自己主導的な学びの一步を後押しします。24時間いつでも利用可能で、教員の探究指導の補助ツールとしても活用が進んでいます。



特に始めたては人に課外活動のことを話すのは勇気がいる。そんな時こそまずAIに相談してみてもいいのかもしれない



社会教育

■ マイプロジェクト長野県 事務局

長野県内の高校における探究や探究的な学びを促進する外部機会の充実や高校と外部人材の協働の仕組みの構築を目的とし、立ち上げ、24年度で6年目になりました。

より地域に根ざした学びの機会としての運営を目指し、マイプロジェクトの経験者であるアルムナイや地元の団体・企業を積極的に運営に巻き込んでいます。

〈委託元：長野県教育委員会 学びの改革支援課〉



サポーターさんが色々な質問を投げてくださいったことで、自分がこんなことを考えていたというのを、考えるきっかけになり、自分たちの活動を発信することで第三者目線から新たな気づきを得られるということが分かった

■ ワンダリングチャレンジ@地域

学校展開だけでなく、地域・企業連携型の事業展開を目指し、研修・プログラム提供の型を確立し、学校への営業同行やミッション作成支援等に取り組みしました。

24年度は松本で開催を実施したほか、現代アートの祭典である「横浜トリエンナーレ」の共催プログラムとして4～5月に実施。優秀チームを連れての台湾研修も実施しました。〈協働先：NPO法人ETIC.,一般社団法人KOKO〉



新しい考え方を知ることが出来た。多様性という意味を考える上でその言葉自体の使い方が違うなど指摘を受けたり、色々な人の大切にしていることが人生においてあるのだとわかって、感動した。

■ MAKERS UNIVERSITY U18 事務局

まだない生き方・選択肢を切り拓くU18が、志に向かって試行錯誤できる4泊5日の合宿から始まるプログラムや奨学金制度の仕組みを構築しました。24年度はこの場に集う参加者の挑戦の歩みをより多くの人に発信をするためにAhaDAYを開催。オンライン/オフラインにて200名以上の中高生、教育関係者に自分が決めた道を、さまざまな資源を活かしながら前に進む多様な事例を共有することができました。〈委託元：NPO法人ETIC.〉



「すごくすごくたくさんの学びがありました。素敵な仲間と、メンターさんと、事務局の皆さんと、先輩方と繋がれました。「遺伝学」という超絶マニアックな興味を受け止めてくれて、本気で語り合えたのはmakersだからこそです。」



社会教育

■ GATEWAY CAMP U18 / U18 Lab.

起業に関心がある気がしつつU18世代が、大学に行ってからではなく、高校時代から一歩踏み出して自分なりの挑戦を積み上げられるような環境づくりを目指し、今年度から新たに開始。

「仲間・メンターと深くつながり“次の一歩”を描く2泊3日合宿+3か月伴走コミュニティ」「1 on 1とプロトタイプの発表機会の提供」等様々な形での仕掛けを実験、効果検証をいしました。

〈委託元：東京都 / NPO法人ETIC〉



「人生最高の3日間。挑戦する仲間と出会えた！今まで、誰かに話したい、他の人の意見を聞きたいと思っていたことが実現できて嬉しかったです。」

■ 越境部活動PJ

越境部活動PJは、学校・地域・学年を越えた高校生が専門家顧問と少人数で“部活”を立ち上げ、メタバース部室や成果発表会を通じて学びを深める伴走型プログラム。23種の部活を試行し、各部5～10人編成で運営、満足度100%・学び深化80%という結果を得られた。3か月連続活動に加え、全国オンライン／オフラインの1Dayフェスタや部活創設支援なども実施。〈協働先：NPO法人Leapfor 助成元：三菱みらい育成財団〉



「オンラインでも地域を超えて“まちデザイン”を語り合えたのが新鮮で刺激！こんな仲間と挑戦できた3か月は一生もの。もっと越境したい」

■ 企業・団体へのサポート・アドバイザー

10代の学びの選択肢を増やすために、新たに10代の学びに関わる事業を行う企業・団体やより良い形で広げようと挑む団体の仲間として様々なアドバイスや情報提供、壁打ち相手等を行う事業を開始しました。今年度は有償で4社を中心にサポートを実施致しました。

〈実績：baton株式会社/株式会社笑下村塾 他〉



「たくさん知見いただき、整備しなければいけない部分が見えてきたので、とても助かりました。おかげさまで、当日は目立ったトラブルや遅延もなくワークショップを実施できましたし、参加してくれた学生たちも終始意欲的に参加してくれました。」

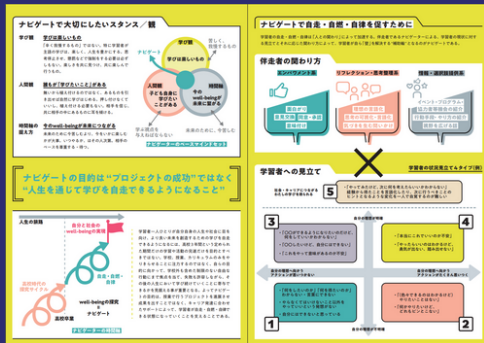


教育関係者向け

それぞれの領域・地域で若者の学びをサポートしている団体・個人と共に、次世代の教育の在り方や教育指導者としての在り方を広げられるよう、教育関係者向けの取り組みも広げています。

■ 学びのナビゲーター研修

今後の教育関係者に必要なマインド・スキルセットを「学びのナビゲート」と名付け、普及を目指しています。23年度に整理したものをベースに、24年度は「関わり・見立て」の技術を体系的に習得し、10代の自律的探究を支える研修づくりに着手。研修17回（学校/自治体/団体等）・延べ588名を実施。更に知見を深めるための研究会にも新たに21名の仲間が加わり、学校・行政・民間での共通言語となりうるノウハウの収集及び可視化も実施。〈助成：一般財団法人三菱みらい育成財団〉



23年度に研究会参加者の知見をとりまとめ作成した学習者の「自走・自燃・自律」を促す知見をナビゲートガイドブック及び関係者の事例をまとめた事例集も作成。

ダウンロードはこちらから➡



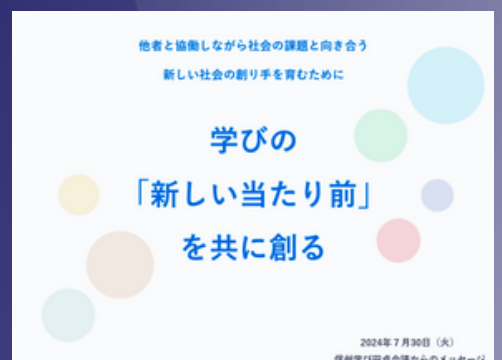
■ 信州学び円卓会議 民間側事務局

23年度に立ち上がった「長野県の子どもたちにとって最適な学びの在り方」を議論する信州学び円卓会議の民間共同事務局を務めています。24年度は信州学び円卓会議が発信した「メッセージ」の作成支援、「教員向けアンケート」の素案づくり・レポートニング、「教育関係団体同士の意見交換会」の議論の活性化に向けた企画・進行を担いました。また、「学びの新しい当たり前を共に創る」ともつく”フォーラム”の企画・当日運営を担いました。134名が参加し、県全体での「学びの新しい当たり前」を目指す機運醸成に貢献しました。

〈委託元：長野県 県民の学び支援課〉

世代を超えていろいろな立場の人がこどもたちの学び（大人たちの学び）について分かち合う大切さを感じました。

（”ともつく”フォーラム事後アンケートより抜粋）



信州学び円卓会議の取組➡

活動計算書サマリ

2024 年 4 月 1 日 から 2025 年 3 月 31 日 まで

	科目	金額(単位:円)
経常収益	1. 受取会費	90,000
	2. 受取寄附金	101,043
	3. 受取助成金等	18,310,000
	4. 事業収益	38,670,816
	5. その他収益	157,717
経常収益計		57,329,576
経常費用	1. 事業費	
	給料手当/法定福利費	23,316,446
	業務委託費	15,761,933
	謝金	267,898
	印刷製本費	175,518
	会議費	767,514
	交際費	113,140
	旅費交通費	3,494,176
	通信運搬費	2,182,533
	消耗品費	274,217
	諸会費	10,500
	研修費	936,962
	支払手数料	149,108
	新聞図書費	2,530
	雑費	232,359
	広告宣伝費	445,303
	事業費合計	48,130,137
	2. 管理費	
	給料手当/法定福利費	749,481
	その他	5,596,036
	管理費合計	6,345,517
経常費用計		54,475,654
当期経常増減額		2,853,922
税引前当期正味財産増減額		2,853,922
法人税、住民税及び事業税		708,300
当期正味財産増減額		2,145,622
前期繰越正味財産額		96,257
次期繰越正味財産額		2,241,879

○事業収益の拡大と助成金依存度の低下

「事業収益」が要となるモデルに移行しつつあり、組織の自立性が高まっています。

※2023年度は事業収益24,318,000円と比べ、2024年度は59%増加しました

○助成金を活用した新規事業展開

三菱みらい育成財団からの助成18,310,000円は、ナビゲーター研修やwilldoor事業など、支援の輪をさらに拡大する原資となっています。

○組織運営土台の拡充

組織運営に必要な投資を適切に実施。規模が増え、社員の新規採用も見込み、特に業務委託費を中心に、バックオフィスの強化を図ることで守りも含めてより信頼を得られる安定した組織運営を目指します。



財務諸表の詳細はこちら

主な協働先団体

